令和３年度授業改善プラン　国語科

大田区立大森第四中学校

令和２年度（前年度）授業改善プランの検証

取組における成果と課題

本校においては、漢字の読み書きや文法などの言語事項の学習を課題としている。その中でも、文法・語句に関する知識、漢字の書き・読み取りが、これまで他の領域に比べて正答率が低い傾向であった。対策として、授業の中で漢字の学習に力を入れてきた。その結果、全学年で正答率が目標値に達していた。更に漢字や文法の知識を定着させられるよう継続して指導していく。

国語科における調査結果の分析

内容別正答率	＜第１学年＞　多くの領域で正答率が良好であるが、「話の内容を聞き取る」領域において正答率が目標値を大きく下回っている。 ＜第２学年＞　全体的に目標値を上回っている。「文法・語句に関する知識」に関する事項の問題における正答率が低く、目標値を下回っている。 ＜第３学年＞　全領域で、正答率は区平均を上回っている。
観点別正答率	＜第１学年＞　３観点のどの項目でも目標値を上回った。 ＜第２学年＞　「言語についての知識・理解・技能」の観点で目標値を若干下回った。 ＜第３学年＞　５観点のどの項目でも目標値を上回った。
領域別正答率	＜第１学年＞　「話すこと・聞くこと」について目標値に届いてはいるが正答率がやや低い。 ＜第２学年＞　「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、目標値を若干下回った。 ＜第３学年＞　４つのどの項目でも目標値を上回った。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

＜第１学年＞　話の内容を聞き取ることが全体的に苦手なので、「話すこと・聞くこと」について学力向上を図るために、古文の暗唱や聞き取りテストを重視して行なう。

漢字の読み書きの能力や語彙力を育成するために、漢字練習の際には類義語や対義語など派生して周辺の語句にも触れさせる学習を設定する。

＜第２学年＞　文法・語句の知識が弱く、言語文化の特質の理解が不十分なので、漢字の読み書きの能力や語彙力を育成するために、漢字練習の際には訓読み・音読みの発展的な学習や類義語や対義語など派生的な言葉も理解させていく。

話し合い活動の時間を積極的に取り入れる。

＜第３学年＞　文学的文章の読解よりも説明的な文章の読解の方が弱いので、論理性を重視した解の方法を使った読み取り練習を追加する。

漢字の読み書きの能力や語彙力を更に高めるために、漢字練習の際には発展的に訓読み・音読みの学習や派生的な言葉も理解させていく。